



文化博物館だより 第254号

2009年1月22日

みなさん、こんにちは。1月から2月にかけての時期は、一年で最も寒いですね。でも、梅の木にはもう、つぼみが赤い色を覗かせていましたよ。

● 特別講演会「長谷川三郎の眼」

兵庫県立美術館から河崎晃一氏をお招きして、17日（土）、特別講演会が行われました。河崎氏は、長谷川三郎と同じく甲南の出身で『画論集』編纂にも関わられた長谷川三郎研究の第一人者です。ご自身が22歳位の時に長谷川が17・8歳で書いた文章を読み、その内容の素晴らしさに感服し、「この人には一生かなわない」と思われたそうです。

講演の中で、河崎氏は、冒頭に「絵だけを観ると、物足りなく思うかも」という言葉で切り出し、長谷川の行った仕事はその作品だけでなく、評論などの形で遺された思想も含めて見ることでその評価のゆえんが理解できるのだということをお話しされました。

実践と評論を繰り返し、晩年にアメリカでやっと評価を受け始めた長谷川三郎は残念ながら50歳の若さで亡くなってしまいます。その先見性と早すぎる死が今さらながら惜まれる、ひとりの作家の生涯を垣間見ることができた講演会でした。



講演会の様子

● 今週末は、コンサートがあります！

今週末25日（日）午後2時から、新春ロビーコンサートが行われます。今回は、歌とピアノで、以下のようなお正月にふさわしい曲目で用意されています。

【曲目】

- ・風雅小唄 作曲:貴志康一
- ・北海道民謡 船頭唄 編曲:貴志康一
- ・愛する歌より 誰かが小さなベルをおす、ロマンチストの豚、雪の街 作曲:木下牧子
- ・アイリッシュ民謡 庭の千草、ロンドンデリーの歌、グリーンスリーブス

歌は三好啓子さん（大阪音楽大学声楽科卒）、ピアノは阪田みゆきさん（桐朋学園大学音楽部ピアノ科卒）です。お楽しみに！

『長谷川展』は、会期後半に入っています。ゆったりと観られますので、ぜひご来場くださいね！

<http://www.akashibunpaku.com> 明石市立文化博物館 編集 中村加奈子（むっちー）